

「生活」学習指導案

1. 日時 令和6年10月24日（木） 第6時限（13:55～14:35）
2. 場所 中学部 教室
3. 学部・学年・組 中学部
4. 単元（題材）名 「きっぷを買ってみよう」
5. 単元（題材）目標
 - ・公共交通機関についての理解を深める。
 - ・調べたことや理解したことを表現することができる。
 - ・電車やバスなど公共交通機関に興味を持つことができる。

6. 生徒観

本校中学部の当学年の生活・理社の授業は能力別にA～Cの3つのグループに分けて学習を行っている。当グループは、教師の問いかけに対して挙手して答える生徒や質問や発見した点などを積極的に伝える生徒もいるが、教師が前を向くように呼びかける必要のある生徒もいる。生活の授業に対しては意欲的な生徒が多いが初めて行う単元などに対して苦手意識を持っている生徒もいるので見通しをもって授業に参加できるような支援が必要である。

本単元ではプレゼンテーションソフトを用いて再現した自動券売機のシミュレーターを用いて、公共交通機関の利用方法について知り、公共交通機関について理解を深めることをねらいとする。学習内容の理解の程度は異なるものの、大阪メトロの電車や駅など交通機関について関心が高い生徒もいる。本時では自動券売機の使い方を通して、公共交通機関への関心をさらに高めていけるようにしたい。

7. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
公共交通機関についての理解を深めることができる。	調べたことや理解したことを表現することができる。	公共機関に興味を持って取り組むことができる。

8. 単元の指導と評価の計画（全5時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	大阪メトロの駅名を知ろう	駅の写真や路線図、電車の写真を用いて、興味を持って取り組めるようにする。	A
2	2	四つ橋線の駅に行くための料金を調べよう	駅内運賃表（路線図に料金が書かれているもの）を使って視覚的に料金がわかるようにする。	B
3	3	券売機のシミュレーターを使って切符を買ってみよう	自動券売機の操作方法を教師が見せて、使い方を説明する。 必要な場合は教師が言葉かけを行い操作できるようにする。	A
	4	行きたい駅までの切符を買ってみよう	自動券売機の利用方法を改めて教師が見せて、使い方の復習を行う。 自分で行きたい駅を選ぶことで興味関心が高まるようにする。	A、B、C
4	5	お金を払って切符を買ってみよう	切符購入のためには、お金が必要であることを理解できるようにする。 硬貨の種類については「家庭科」で既習。 硬貨を選ぶ際にはTTが補助を行う。	A、B、C

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・自動券売機を使って切符を買うことができる。
- ・行きたい駅を選んでその駅を伝えることができる。
- ・自動券売機を使おうとすることができる。

(2) 本時の評価規準

- ・自動券売機を使うことができている。
- ・駅を選び伝えることができている。
- ・教師の説明を聞いて、児童券売機を使おうとしている。

(3) 本時の ICT 活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

- ・タブレットのスライドショーの機能を利用して、大阪メトロの券売機を再現して利用し、興味関心を高めることができるようにする。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
2分 導入 ①	・あいさつ	・当番生徒が前であいさつするように言葉かけを行う。	
10分 導入 ②	前回の復習 ・料金表の確認 ・券売機の使い方の確認 ・硬貨の復習	・料金表を提示する。駅名、料金を教師が読み上げ、料金表の見方の確認を行う。 ・教師が券売機のシミュレーターを使用して、使い方を復習する。 ・券売機で利用する10円、50円、100円のみ復習する。	A
23分 展開	・北加賀屋から行く駅を選ぶ。 ・選んだ駅を発表する ・金額分の硬貨を選ぶ。 ・券売機を使って購入する	・タブレットを用いて料金表を見て、駅を選ぶ。選んだ駅をプリントに書いて記録する。時間は考えて、記入する時間は5分とする。 ・駅名と運賃を発表してもらい、運賃が間違っていないか確認する。 ・正しい金額を払って切符を買うことができているかを確認する。 ・金額を正しく支払うことができるように、硬貨のイラストが描かれたプリントで支援する。また、TT による言葉かけによる支援も行う。 ・硬貨の枚数を最低限にして、生徒がわかりやすいようにする。今回の場合は最高金額が390円なので、100円硬貨3枚、50円硬貨1枚、10円硬貨4枚配る。 ・必要な分の硬貨を持って前に出て券売機のシミュレーションを行う。 ・使い方が難しい場合は言葉かけを行い支援する。	B・C
5分 まとめ	・感想を聞く。 ・あいさつ	・難しかったところや、特に頑張ったことを発表する。	B